第235号
発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館
毎月 1回15日
定価 1部 5円

なかさと

2月1日現在

人口	7,312 (＋ 3)
男	3,604 (＋ 2)
女	3,708 (＋ 1)
世帯数	1,671 (－ 1)

カッコ内は前月との比較

三十八年以来の豪雪 一週間の降雪四・五M

一月十八日に降り出した雪は二十四日まで降り続き、昭和三十八年以来という豪雪をもたらした。このため村では、二十一日正午、総務課内に「雪害対策本部」を設置、除雪対策や孤立部落との連絡にあたる一方、村内全域に文書による注意を呼びかけた。この一週間の降雪量は二十一日の一一〇センチを最高に、延べ四四〇センチに及んだ。このドカ雪のため、飯山線の全面運休や陸上交通の乱れで通勤、通学の足が奪われ、村内の各小、中学校でも休校や始業授業時間の変更などが行われた。又、屋根からおろされた雪で川や流雪溝が氾濫したり、消雪パイプの水が路面にあふれて歩行にも困難をきたすなど光景が見られた他、田沢中学校では屋内体育館の屋根の雪が一度に大量に落ちたため、校舎の柱が折れてすじかいに損傷がでたのをはじめ、清津峡ホテル（瀬戸口）では屋根から落ちた雪がおし寄せ、壁や建具、家具などが破損するなどの被害がでた。二十五日には県知事から消防団の除雪出動要請があったため、翌二十六日から二十九日までの四日間、毎日五十名の消防団員が出動して飯山線の除雪にあたるなど〝便利さ〟の裏の一面を見せつけられるとともに、毎年繰り返される騒動に、改めて雪国の生活環境の整備、改善への期待を感じさせられる〝ドカ雪〟であった。

二月に入ってからは降雪も少なく、平穏な天候が続いていますが、これからは雪崩の発生しやすい時期になりますので充分な注意が望まれます。

1月18日～24日の積、降雪しらべ

（宮中えんてい調）単位 cm

日 / 種別	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日
積雪	80	145	180	260	265	280	285
降雪	2	70	80	110	52	58	72

入院中の小林さんが 豪雪対策本部に寄付

先月二十九日、小林田鶴さん(会)は、上村病院の院長を通じ、豪雪で困っている人の役にたててほしいと三十万円を村の豪雪対策本部に寄付されました。

小林さんは津南町芦ケ崎本村の出身、昭和三十八年に当村へ転入して以来上村病院で働いていましたが、脳血せんで倒れ、一昨年二月以来上村病院で療養生活を送っています。

この寄付金の使途については、現在村で検討中です。

中里村奨学金 希望申し込みは3月15日まで

中里村育英事業委員会では、昭和五十一年四月からの村育英資金貸与希望申し込みを次の要領で受け付けております。

①申し込み資格

高等学校を卒業した者、又はこれと同等以上の資格を有する者で大学入学を希望している人又は現在大学在学中の人。

②貸与予定人数　五名以内

③申し込み方法

貸与希望者は、次の書類を添えて三月十五日までに村育英事業委員会宛お申し込み下さい。

㋑資金貸付願　（一通）
㋺身分証明書　（一通）
㋩健康診断書　（一通）

なお、詳しい事は教育委員会事務局におたずね下さい。

龍吟

生命の一体感

斎藤大馨

童心はうらやましい幼児がかわいい縫いぐるみのイヌを抱えてウン、ウンという。しばらくすると、縫いぐるみと、生きたイヌとの区別はない。みんな楽しいボーイ、フレンド、というよりも一つになっている。

動物と対話のできるのは、こどもしかない。それが証拠にこどもは動物ずきである。土曜から日曜にかけて、動物園が賑わうのもうなずける。

こどもはイヌ、ネコ、サル、クマや小鳥とも自由に話しをする。こどもたちの耳に、動物の声が聞こえてくる。目と目が、いや眼と眼とが視線を合わせてものをいう。万物の霊長を自負する大人どもが、対話の出来ないのは皮肉である。

東京都下で、こんな事件があったことを思い出す。三つになる坊やが、友だちと一緒に小公園に出かけて、子犬を拾ってきた。若い母親に「うちで飼えないから、どこかへ捨てなさい」と叱られた。二人のこどもは再び公園にいき、他の一人がプールに投げ込んだ。子犬はおぼれそうになって、悲命をあげてもがき出す。

とっさに坊やは、プールサイドの梯子に足をかけ、必死になって助けようとする。この間、二、三分。不幸にも足を踏みはずして、子犬とともに水死している。

「助けてくれ」の叫び声が、坊やの全身にひびいて来たのだ法隆寺の玉虫ずしに描かれた「投身飼虎」が思い出される。まことに坊やは「仏心は大慈悲」の生き仏であった。

どうしてこどもは動物と対話が出来るのか。直観的に「いのちの一体感」を、からだで受けとめるからだろう。シュバイツァー博士は「生命への畏敬」に生涯をささげた。

「いのち」とは、いったい何なのか。生物学の進歩は目まぐるしく、生命の神秘に肉薄しようとしている。動物実験の結果によると細胞がつぎつぎに分裂して、目となり耳となり心臓になって、一羽のニワトリになる

どうして細胞が分裂するかはもう科学の分野ではない。細胞にいのちがこもり、いのちが分裂すると解するほかはない。いのちが細胞を縁として、細胞をのり超えていく。細胞がいのちをつくるのではあるまい。分裂した細胞が、どうして目となり耳となり、心臓となるのか。これは人間の知識の限界を超えている。「判断の中止」で強いていえば不可称、不可説、不可思議の「自然のことわり」というのほかはない。自然とはおのずから然らしめられることである。

生々と発展するいのちは無限に分裂するが、しかも分裂したままに、いのちはひとつなのである。一本のローソクの灯は、つぎからつぎに他にもえ移り無尽灯になってもえさかる。しかもいのちはひとつなのだ。

それぞれの縁によって、いのちのあらわれは千差万別だが、多即一におさまる。生きとし生けるものには、ひとしくかけがえのないいのちがある。山川草木悉有仏性で、仏性とは限りない「いのち」に間違いはない。ことばをかえると、ひとつのいのちから出ている。

三つになる坊やは、子犬の悲鳴を聞いて自分のいのちの危機を直感した。ソロバン勘定の高い大人には、このいのちの一体感がわからない。幼年、少年、青年、壮年と成人するにつれて一体感が薄らぐ。人間性のマヒであり喪失である。私どもは文明の実態を、改めて問題にしたい。

新刊図書案内

日教組（上）その組織と活動
（下）教室の中で　サンケイ新聞
親でなければできない教育　品川孝子
子どものための学校　青木一
禁じられた美徳　高橋玄洋
青春の烙印　陳舜臣
イブのおくれ毛　田辺聖子
ほんとうの女らしさとは　ジーン・マリン
北斗の人　司馬遼太郎
平賀源内　桜田常久
剣士燃えつきて死す　笹沢左保
三億円犯人の独白　根上磐
平将門の謎　木本至
ガンを生きる中山慶一　速水ふさ子
加奈子（上）　小山内美江子
東芝日曜劇場（上・下）　石井ふく子
ジョーズ（顎）　ピーター・ベンチリー
タワーリングインフェルノ　T・N・スコーシア
F・M・ロビンスン
玉砕を禁ず　小川哲郎
戦後秘史　天皇と原子爆弾
祖国革命工作
マッカーサーの憲法　大森実
わらべ遊び　大橋渉
二人と二人の愛の物語　笹沢左保
罪の夜想曲（上）　梶山季之
私はまだかって嫌いな人に逢った事がない　淀川長治
ふるさとの民話　永田義直
危機日本への私の訴え　松下幸之助
日本人は死んだ　M・トケイヤー
いま学校で（2・3）　朝日新聞

◎児童むけ図書

つむじ風のち晴れ
ぶっちは一年生
ママは三百年生
ながいながいペンギンの話
ちびっこカムのぼうけん
チョコレート戦争
つづり方兄弟
ひまわり愛の花
ふくろう横町のなかまたち
おとうさんがいっぱい
ふかふかうさぎの海の旅
雪のこんこ
星からおちた小さな人
豆つぶほどの小さな犬
ぼくと化け姉さん
手紙になったリンゴ
しらさぎ山のクマたち
三人で見た空
王さまびっくり
だれも知らない小さな国
ふしぎな目をした男の子
宿題ひきうけ株式会社

税の申告はお早めに

所得税の確定申告と納税、住民税の申告は二月十六日から三月十五日までです。

申告は早めにいたしましょう。

所得税の確定申告をされた方は事業税と住民税の申告をする必要はありません。

所得税の納税は自主納付になっていますので、近くの銀行か郵便局で納付して下さい。

また、振替納税を利用されると便利です。

申告書の書き方がおわかりにならない方は、税務署、役場でご相談に応じていますのでお気軽にご利用下さい。

―十日町税務署―

中里文芸 二月投稿

追風
綿雪を冠り紅濃きゆきつばき　栄山
すれちがい親子名のるや雪ぼうし　玉泉
寺の村鐘韻消して猛吹雪　鳴石
屋根で呑むコーラ甘き雪卸し　海人
梅咲くや兎角気になる隙間風　寂子
寒卵父の言葉をききにくる　時習
重そうに春を背負って歳の市　泥児
川瘦せて狩人渉りし雪の跡　カウ
はたちの願夢がふくらむ寒椿　深雪
ほのとかざす炭火に遠き魚の影　菊子
人の世の去り逝く年の水の音　涼子
春の扉のいずれも遠く思わるる　芭月
吹雪かれて囲いの影に舞いもどり　大泉
干菜汁ふぶかれし道遠く来し　とし子
除夜の鐘もれる灯やさし雪の里　土牛
寒鴉梢に寡黙の日の孤高

人生往来

◎産声

氏名	父の名	部落
樋口一美	一友	山崎
吉楽寿幸	隆司	上山
池田由香	克人	如来寺
服部清高	幸一	小原
保坂邦江	定一	芋沢
富井正純	秀智	市之越
田村正志	喜一	小原
高木栄美子	晴美	田中

◎高砂

新郎　樋口仁（二六）朴木沢
新婦　村山悦子（二一）東田沢

◎昇天

氏名	年令	部落
村山四郎	（四〇）	田沢
桑原フミ	（七三）	田代
鈴木マツ	（六六）	重地

「こどもの歯と食生活」は今月は休みます。

―NHK「青年の主張」最優秀賞作品―

わたしの訴えたいこと

村山幸枝

今日も私の目は原稿と活字を追っている。「カチャカチャ」と音をたてている。椅子に坐っている私はどこから見てもおかしくない恰好である。

健康人とほぼ変らない。

けれど、用で椅子を立つ時から私の困難がはじまる。重い身体を引きずる様にして歩く姿はどうしても不恰好である。

こうなった運命に対して到底反発する事はできません。

私の病名は「進行性筋萎縮症」です。当時五年生であった私と、すでに発病していた姉と一緒に父母に付き添われて新潟大学の神経専門の医師に診てもらい原因不明の難病と診断されました。その時、医師と話していた母の涙の姿を今だに忘れ去る事ができません。両親の心はどん底であっただろうけど、私達には常に厳しく、優しい心で接してきてくれました。とても元気だった幼い頃を思い浮べても再びこの手に舞いもどってはきません。

そんな私が、残された機能に夢を託して和文タイピストになり、タイプに始めて出合ってもう六年の月日が過ぎ去りました高校二年生の時何げなく入ったタイプクラブ。三年生の時初めて創った文化祭での詩集。自分の手で本を創るという素晴らしさを知った私は、卒業の進路に対してもタイプを希望し、もっと技術を習得したい思いにかられ、汽車に乗れない私は母に背負われて愛知県身体障害者職業訓練校に入校し、一年の課程に歯をくいしばりどれだけ自分にできるか試してみました。この一年間は生涯消える事のない充実した日々となり、私の心の勇気と努力の糧となりました現在、重度の私にとって、こうして働ける事は本当に力強い生甲斐となって心の底から喜びが湧いてきます。

私に与えられ残された機能は手先だけです。恵まれているといえるかもしれません。けれど限られた機能に保障する期間は全く予想されません。少しづつ蝕ばまれてゆく身体を鞭打って精一杯一日の仕事を成し得る事だけです。現在の私は歩行動作が大変困難になりました。一歩油断すると車椅子の行動になる怖れと焦りに陥り、生活範囲がますます狭くなる自分に対して戸惑い迷う心を必死に押さえる自分を悲しく、愛しくなってくる事はいうまでもありません。けれど今日生きるという事、私達の第一歩である明日を生きるという事は人間にとって、価値ある人生の素晴らしさそのものであると思います。

私達の取りまく全ての物が変ろうと明日は存在するのです。その明日に残された僅の能力を生ぬるい感情で手加減せず、十二分に発揮していかなければならない事は最も大切な心構えの出発点だと思います。

身体障害者となった事は運命としてあきらめもします。けれど、身体障害者の将来には数多くの問題があり、未だ解けない課題さえ悲しみの中にうずまいている現実です。

その現実に背く事は許されないものだと思います。

弱い立場にある私達にとって、自分の将来を築いていく権利を要求していく事は決して間違っているのではなく、人間として当然の事だと思います。

障害者に狭い職への道にあって限られた枠の中で自分に適する仕事を、しかも、生涯とする道を探し求め得ることは簡単なようで実に難かしく複雑であります。

身体障害者として生れ、生きていく私達に真に生きる事のできる将来は、私達一人一人の手で導き築きあげていかなければなりません。このめまぐるしい社会機構の裏で、私達の将来に対して、たとえ肉体的なハンディキャップがあろうと、何にも屈しがたい目的、目標の発見に挑み、残された機能に無限の可能性を信じて未知への世界に開拓者精神の志をもって歩み進む事だと思います。

そして、自分自身の最大限の力を発揮して残された機能をともとして誠意と情熱を絶やすことなく明日を突き進んで行こうではありませんか。

村内児童、生徒の虫歯治療を登録制に

一昨年十一月の開設以来、村立歯科診療所では村内小、中学校の児童、生徒の虫歯治療についてこれを申し込み制とし、申し込み者に対して二回の治療を行ってきました。この間、治療を受けた児童、生徒は村内全校の約七十%にあたり、治療された歯の数は四、五七四本にものぼっております。これは、治療を受けた児童、生徒に平均五、四本の虫歯があったということになります。

又、予防面ではフッ素水によるブクブクうがい、正しい歯みがきの指導を行って子ども達の歯の健康を見守ってまいりましたが、食生活の変化に伴い虫歯は年々増加の傾向にあり、子ども達の虫歯は病気の進行がきわめて早く、短期間にどんどんひろがってゆきます。

又、治療をしても管理が悪ければ再度おかされる事になります虫歯予防で、簡単でしかも極めて有効な方法は、三度の食事の後必ず歯をみがき、口の中を常に清潔に保つ事です。

しかし、一度虫歯になったら治療しないで治る事はありません今までの申し込み制ですと痛くないから、前に治療したからといって放置してしまいます。

進行がおそろしく早く、しかもひどくなったら治療の余地のない子ども達の虫歯予防には毎年定期的な治療が必要です。

すなわち早期発見、早期治療により治療不能な状態を防止できると思います。

従って、村内小、中学校児童、生徒の虫歯治療について従来の申し込み制を廃止し、昭和五十一年度より登録制により実施することになりました。

◎登録制について

治療は登録制とし、登録者については中里村立歯科診療所において毎年定期的に治療にあたる。

◎登録の時期

毎年四月とする。但し昭和五十年度については二月に行います。

◎登録期間

小学校一学年就学時から中学校卒業までとする。

◎登録方法

登録申し込み書により登録する。

◎治療通知及び治療

登録者名簿により、各保護者あて通知書により通知し治療にあたる。

◎一部負担金

健康保険法で定められた料金で行ない、一部負担金は窓口徴収を原則とする。

尚、登録申し込みについては児童、生徒を通じ各保護者あて虫歯治療登録申し込み書をお届けいたしますので申し込んで下さい。

詳細は歯科診療所

（電話二四八八）へ。

妻有の母ちゃんが書いた「豪雪と過疎と」

この本は、雪深い妻有の山村で主婦たちが、エンピツをなめなめ書いた生活記録です。公民館や婦人学級、婦人会、若妻会などの活動から生まれました。豪雪と過疎の嵐の中で、じっとこらえている無名の主婦たちのつぶやき――。その切なさやうれしさの端端に、激動の世を生きぬく逞しい生活力と人生の真実がにじみでています。ぜひ、御一読をおすすめします定価九五〇円で、現在公民館（電二四九三）で申し込みを受け付けております。

雪国であるがゆえに
雪の深さを　夫のいないさびしさを　じっとこらえているのです。

それだからエンピツを持つのです。

なつかしい昔を想い　かわいい子供を思い
出稼ぎを考え　出機を考え
まがりかどにきたという農業を考えて
エンピツを走らせるのです。
走ってはとまり、とまっては走る。一本のえんぴつに自分をたくして……。

書く事がこんなに楽しく
こんなに苦しく
こんなにも自分を考えさせるものだったでしょうか。

えんぴつをにぎる夜　雪のふる音だけが聞こえる。

雪国であるがゆえに
雪の深さを　夫のいないさびしさを
じっとこらえているのです。

―本文より―

欲深き人の心と降る雪は
つもるにつれて道を忘るる

農業の将来をどうする
―苗場山麓開発事業を捨てた中里村に問う―

村山武

「今さら、苗場山麓開発のことなど聞く耳持たない」というのが関係中里村民の意識であろうか。私にはそうは思われない現に倉俣地区においては、第二地区として津南町と共にこの事業に積極的に取り組みつつあるからである。

今年、本紙（十日町新聞）新年号の紙上で、中里村の高橋村長はじめ上村議長ら議会主脳を集めた「村の産業振興を語る」座談会特集を行った。お読みになった読者もあるかもしれないが、席上、村首脳のほとんどが苗場山麓開発事業の重要性を認めていたし、第三地区が除外された事を残念がっていた。

第三地区の鷹羽を含む東田沢田沢、芋沢に至る一帯が十日町市と共に開発される予定になっていたが、中里村分だけが脱落を余儀なくされた。

その理由として、高橋村長の説明によれば「地域農民にやる気がなかったからだ」という。

高橋忠雄産業経済委員長も小林農政副議長も本紙新年号座談会の席上では同様な発言をしていた。私はこれを聞いて悲しくなった。これ程の大事業を、やる気がないという事で、村政指導者が涼しい顔をしていられるものか。村民にやる気がないといえば責任がのがれられると思っている指導者の「やる気のなさ」が悲しくなるのだ。

同じ座談会の席上、出席者のほとんどが「苗場山麓開発事業はやらないが、清津川の水は中里村を流れているのであるから水資源の活用については、村としては他市町村に優先して考えなくてはならない」との意見であった。清津川の水は確かに中里村を流れてはいるが、事業をしなくては水を引いてくる事はできない。奥清津にできる多目的ダムの水は、農業用水だけでなしに生活用水、工業用水としても活用される事になるが、スキー場やゴルフ場や牧場だけならわざわざ奥清津の水を引かなくても間にあうし、そのために多くの水を要求しても認められないだろう。一体、観光開発でどれだけの村民の生活に恩恵がもたらされるであろうか。

そして、ここでの観光開発がはたして経営がなりたつものか。冷静に考えてみた事があるのであろうか。苗場山麓開発事業をすてて観光に生きるという地域住民の意志がどのへんにあるのか、私には想像のつかないことだ。今、十日町市では、隣りの珠川部落以北の段丘地と平場一帯の未墾地六百四十ヘクタール、土地改良八百六十ヘクタールの開発を進めようとしている五十一年度全体実施計画が認められ、五十二年から五十七年まで着工、完成。営農計画では「米プラス畑」の複合経営で所得目標を一戸二百五十〜三百万円（四十九年度単価）として近代的な農業基盤づくりを展開するという。十日町市での苗場山麓開発事業の地元負担金は、試算によると十アール当り事業費七十万円として農家の負担金は農地開発の場合五千四百円、工事中は農林省が立て替え払いなので完了後の償還金は五万四千円土地改良の場合は事業費五十四万円で農家の償還金が十二万円となる。しかしこの負担額も、ダム費、基幹水路、幹線水路費などの公共施設については地元負担金の全部を市が負担することになるので、更に負担が軽減される事になる。償還の可能性については、工期七〜十年後に造成完了作付をはじめるのであり、たった一年分位の純益で受益者負担が全部償還できる計算になっている。中里村の清津川右岸パイの五十年度普通地区の十アール当り経常負担金はおよそ一万八千円であるから、これと比べて十日町市が計画中の地元負担金の額は問題にならないほど低いのである。ここまですれば「これ以上負担してまで開発の必要なし」と反対してきた中里村の第三地区住民が、はたして苗場山麓開発構想を真面目に理解しようとつとめてきたかどうかが疑わしくなる。

「農業の将来には希望がもてない。農政はなっていないから何をやってもだめだ」という悲観的な考え方に立って、その場その場を生きてゆけばよいという投げやり農業では、これからの農業開発構想を理解することはできないだろう。

少くとも十日町市がこれから行なおうとしている苗場山麓第三地区開発は、水資源を保有した装置化農業をめざしている。

「たった今水田化ができないから開発地区からおりる」といった近視眼で性急な発想でなく、将来（十年後）の農業情勢の変化に対応した「田畑輪換」構想をもって、水路、基盤道路を整備した、近代的農業基盤を確立しておくことが重要である。水資源確保はその前提条件である。確かに現在の農業は多くの困難な問題をはらんでいるが、近代的な営農体制でゆけば決して畑作でも水田に劣らぬ実収益をあげることができる。既に津南町が段丘地でそれを実験ずみである。私は決して十日町市の苗場山麓開発計画を手放しに賞讃しているのでもない。甘い夢を託しているのでもない。

ここ十年間の十日町市農業を成功させるには、なお多くの困難が横たわり、血の出るような努力を必要とするであろう。

しかし、二百億円もの国費をつぎこんで、地域農業の改革に挑む大計画に真正面から四つに組んだ十日町市は、将来に対するなみなみならぬ決意と気魄がうかがわれる。世紀の大事業に参画する阡載一遇のチャンスを自ら放棄した中里村はいったいこれからの農業にむけて、いかなる構想を進めようというのか。

私は村の将来を背負って立つ青年諸君に問いかけたい。

（筆者は十日町新聞編集長）

娯楽大会開かる

久しぶりに雪から解放された去る八日、総合センターで、新春娯楽大会が開かれ、将棋、囲碁、麻雀の三種目に三十五名が参加。豪雪の爪痕が消え去らなかったうちであったためか、参加者の集まりがもう一歩というところではあったが、和やかな雰囲気のうちに、それぞれの種目に日頃の腕前をふるいました。成績は次の通り。

◎将棋
一位 冨井 田吉（山崎）
二位 山田 博（上山）
三位 柳 龍夫（千溝）

◎囲碁（A級）
一位 南雲 繁一（田中）
二位 吉楽 周治（田中）
三位 樋口 勝（通り山）

◎同（B級）
一位 小山 秋作（小原）
二位 吉楽 高義（宮中）
三位 井之川音吉（田中）

◎麻雀
一位 小宮山省三（上山）
二位 根津 一夫（芋川）
三位 高野 道夫（上山）

又、去る十五日には倉俣地区の娯楽大会が生活改善センターに四十六名の参加者を集めて開催されました。成績は次の通り。

◎将棋
一位 山田 市蔵（下山）
二位 根津 正治（芋川）
三位 鈴木 伝作（下山）

◎囲碁
一位 鈴木 寛栄（重地）
二位 南雲 繁一（田中）
三位 宮沢 利二（卯之木）

◎麻雀
一位 高橋 満雄（倉俣）
二位 根津 一夫（芋川）
三位 高橋 信雄（倉俣）

村のことわざ

小柳定夫 ―採集―

◇人は一代、名は末代。
◇夫婦げんかは犬でもくわねえ
◇ほめる人で買ったためしなし
◇見たと聞いたでは、ほっぺたとしっぺた程違う。（「義経と向う臑程違う」ともいう。）
◇昔とったきねずか。
◇目から鼻に抜ける。
◇病は口から入り禍は口から出る。
◇行きがけの駄賃。
◇宵の張りの朝寝坊。
◇楽あれば苦あり。
◇歴史はくり返す。
◇六十の手習。
◇若い時は二度ない。
◇勝ち負けは時の運。
◇女やごめに花が咲く。
◇朝寝坊の夕ひばり。
◇一文惜しみの百失い。
◇親しい中にも礼。
◇好きこそものの上手。
◇銭のきれめが縁のきれめ。
◇そうは問屋がおろさない。
◇ただ程高いものはない。
◇提灯に釣鐘。
◇爪から火が出る様。
◇鉄砲玉の使い。
◇どんぐりのせいくらべ。
◇泣く猫は鼠をとらぬ。
◇瓜の蔓に茄子びはならぬ。
◇おつこ（男）やもめに蛆がわく。
◇河童に塩あつらえた（注文した）様。
◇義理と褌かかされぬ。
◇喰っちゃ寝のばけもん。
◇才（さい）は才におちる。
◇こんだ（今度）と化物に会ったためしがねえ。